

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

志を立てて生きる 渡邊 五郎三郎 (福島新樹会代表幹事)

1. 朱子の「少年老い易く学成り難し」という言葉は、私自身の実感でもありますし、大賛成です。橋本左内の「啓発録」や佐藤一斎の「言志四録」など、日本でも多くの先覚者が説いたことで、若い人にお話をする時には、志を持つことの大切さをお伝えするために、必ずこの言葉を紹介するようにしております。
2. 志というと、クラーク博士の「ボーイズ・ビー・アンビシャス (少年よ大志を抱け)」という言葉が有名ですが、大事なのは実はその後が続く言葉なんです。「それは金銭や我欲のためでなく、また人呼んで名声という空しいものを得るためでもない。人間として当然備えなければならぬ、あらゆることを成し遂げるために大志を持つべし」ですから「大志を抱け」というのは、野望を持つこととは違います。
3. 私は日本健青会という青年運動を立ち上げた頃に、安岡正篤先生から言われましたけれども、そういうことがしっかりしていないで大きなことばかり言う人間になっては駄目です。何を願って志を立てるかが大事なのです。人生で大切なのは、この志を立てて生きることです。

(参考:「致知」2014年4月号)

ワンポイント経営アドバイス

設備投資には冷徹な目と経験が必要

藤井 博行 (日立金属会長兼社長)

1. 企業の製品というのは、それが長かれ短かれ寿命を持っています。そのライフサイクルを見極めて次の主力製品を育てていくには、非常に冷徹な目と経験が必要になります。営業部門からは、お客さんからの需要があるからこれだけの設備投資をしてほしいという要請が上ってきますが、それをそのままのんでいたら大変なことになります。設備投資が会社の屋台骨を揺るがしかねないリスクをはらむことは、近年の製造業を見ても分かる通りです。
2. 時代の要請と企業体力に応じてどう設備投資をするか。周期的な景気循環が崩れた現代、最も難しい問題です。

(参考:「日経ビジネス」:2014年1月27日号)

経営者のための危機管理

海外進出はせず国内で製造機械を作る

1. ある地方の中小企業の会長が次のように述べています。「中国では進出日本企業の資産没収もありうるのではないかと。資産は没収され、身ぐるみはがされ追い出されるのではないかと」。そして最終的に検討したが、「どこへも行き場はない。海外進出はあきらめて、日本の工場を拡張しよう」だった。
2. その場合次の点が重要だ。「日本でただの製品＝モノを作るのもダメ。機械が機械的に作り出す製品がいちばん儲かるが、海外企業が同じ機械を導入したら勝てない。日本の中小企業の進む道は、モノを作るのではなく、海外の誰にもまねのできない製造機械を作ること。それをやるしかない。これができなければ、生き残れない」。厳しい道には違いないが、全国の中小企業が思いを一つにすれば、日本は最強の資本財生産大国として再生できるかもしれない。

(参考:「週刊東洋経済」2014年1月25日号)

古典に学ぶ

生に執着すれば死を招く

(解説) 生死は、いわば出入りである。「無」から「有」に出れば生、「有」から「無」に入れば死。生も死も、ひとしく「道」の現われで、本質的な差はないのだ。生物には、長命なものもあれば短命なものもあるが、生死はそれぞれに自然である。だが、生物のなかでも人間だけは、死期が来ていないにもかかわらず、みずから死を招くことがしばしばある。それはなぜか。人間が生に執着しすぎるからだ。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)